



大学新叢書

風景の奥を読む （公学教授） 〇-5	¥1800
「暮らしと観光」の文化 （大学教授） 〇-5	¥1800
ビジネス （教授）編 ★	¥1800
山ふたりー鈴鹿・大峰・四国・山陰編 三輪敏広・三輪和恵 ISBN 978-4-86110-382-7	¥2000
おはあちゃん！世界遺産を行く 外川洋子 ISBN 978-4-86110-249-3	¥1500
おはあちゃん！豚となって木に登る 外川洋子 ISBN 978-4-86110-398-8	¥1500
おはさん！辺境を行く 外川洋子 ISBN 978-4-86110-100-7	¥1500
おはさん！ベトナム留学記 中嶋弘子 ISBN 978-4-86110-297-4	¥1500
ガイドブック的！観光社会学の歩き方 遠藤英樹（奈良県立大学教授） ISBN 978-4-86110-126-7★	¥2000

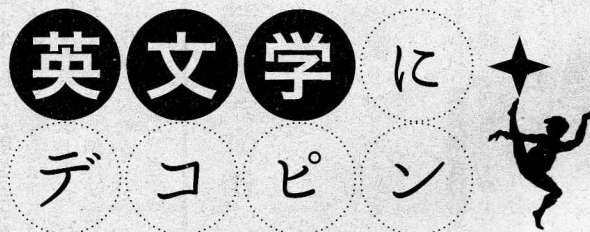
日中間戦争と 中国国文学者

郁達夫、柯霊、陸蠡らをめぐって

鈴木正夫（横浜市立大学名誉教授）

殺害された郁達夫。憲兵隊に拘束された柯霊。拘束され行方不明の陸蠡。中国国文学者は、日本兵による不自由と闘い、いかに生き延びたのか？ 日中間の戦争下における、多彩な文芸活動と文士の気概を照らし出す。

阿部公彦



1 失恋不能症と数の魔術——W・B・イエイツ

アイルランドの詩人W・B・イエイツに「クール湖の白鳥」という作品がある。詩人はすでに50を超え、老いを自覚しつつある。季節は秋。物憂げにパトロンの領地を散策しながら、池に目をやると、そこには白鳥が1、2、3、4、5、6……57、58、59羽！（Upon the brimming water among the stones / Are nine-and-fifty swans.）

この「59羽」をうけ、そういえば「19年前」にも同じように白鳥を数えようとした、でもあのときは途中で飛び立ってしまった……と数の連想から思い出は展開、いかにもイエイツ的なノスタルジアに満ちた哀感が、美しい白鳥が羽根をバタバタさせる様子とともに描き出される。端正な詩だ。

というわけで、つい納得してしまいそうになるのだが、どうでしょう。ふと、よく59羽も数えましたねえ、という疑問が湧いてくる。ほんとに数えたの？ だいたいイエイツは近眼で、執筆時はすでに老眼も入り視界は曇っていたかもしれない。白鳥は実は「36羽」だったとの証言もある。何でわざわざ「36」を

「59」に？ イエイツは当時オカルトに凝っていた。何らかの数の魔術が隠されている、との説もあるだろう。60の一手前の59はいかにも意味ありげである。授業の際には、数学の得意な学生が手をあげて「59は素数です！」と喝破してくれた。

ただ、一番大事なことは、こうやって「たしかに数えた」と言い張りたくなる心境ではないかとも思う。この二度目の白鳥事件のとき、イエイツはひどい鬱状態だった。イエイツが鬱になるのは、たいてい片思いのモード・ゴンに拒絶されたとき。しかし、今回は事情がちがった。伴侶を失い独身に戻ったモードに、イエイツは性懲りも無くまた求婚、案の定拒絶される。ところが、である。ぜんぜんショックがないのだ！ これは失恋不能症か!? まさに中高年男子ならではの微妙な心境で、そこには一段階深い鬱も見て取れるが、そんなとき、数えることが何かを鎮めてくれたのではないか。数への妙な執着は一種の処方箋だったかとも思えるのである。

（国文学者）

立教大学人文叢書

総記・辞典・事典

石碑、直筆原稿、楽譜、絵画、写真、などの媒体をテキストとし、人間精神の多彩な働きを考究する横断的人文学の試み。全五巻！

異文化コミュニケーション事典

石井敏・久米昭元（編集代表）／浅井重紀子・伊藤明美・久保田真弓・青木ミチ子（監修）

現代日本語モンゴル語辞典

橋本勝（大阪大学名誉教授）／E・プレフジヤブ（モ